

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科			
科目名称	環境園芸概論						授業形態		講義		
科目コード	710001	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員			アクティブ ラーニング		
担当教員名	岡島 直方、日高 英二、杉田 亘、関西 剛康、山口 健一、平岡 直樹、新谷 喜紀、菅野 善明、林 典生、 牧田 直子、陳 蘭庄、前田 隆昭									ICT活 用	○
授業概要	キーワードを「環境」において、環境園芸学科の3分野（園芸学分野、造園学分野、自然環境分野）に関わる基礎的知識を学びます。 （今回提示しているのは、2026年度に実際に実施した内容です。）										
関連する科目											
授業の進め方 と方法	オムニバス授業です。各分野の教員が、異なるテーマで講義します。パワーポイントによる授業が多いです。ユニバーサルパスポート による課題提出を指示される場合があります。										
授業計画 【第1回】	「環境園芸概論の意義と概要」 環境園芸学の各分野の概要を解説する。 ・SPARCプログラムの説明/ 班ごとの写真撮影										
授業計画 【第2回】	「樹木の病気と環境の関わり」 樹木の気象障害や土壌障害について解説する。										
授業計画 【第3回】	「侵入害虫の脅威」 外来昆虫の問題を中心にして、昆虫と環境や人との関係を概説する。										
授業計画 【第4回】	「野菜生産のスマート化」 野菜生産におけるスマート化の現状と未来への予測										
授業計画 【第5回】	「トロピカルフルーツについて」 トロピカルフルーツについて紹介する。										
授業計画 【第6回】	「園芸生産と環境」 園芸生産の環境上の問題を解説するとともに、改善方策を考える。										
授業計画 【第7回】	「造園学の新規軸と伝統性を考える」1 Think Globally, Act Locallyの姿勢を考える。										
授業計画 【第8回】	「造園学の新規軸と伝統性を考える」2 Think Globally, Act Locallyの姿勢を考える。										
授業計画 【第9回】	「遺伝と情報・植物のバイオテクノロジー」 園芸植物に利用されているバイオテクノロジー技術を解説する。										
授業計画 【第10回】	「植物バイオテクノロジーと植物病理学」 植物バイオ技術発展への植物病理学の貢献について解説する。										

授業計画 【第11回】	「Tradition and Innovation in Gardens」 日本庭園、西洋庭園の価値や社会性、役割について解説する。
授業計画 【第12回】	「ガーデニング活動による地域共生社会構築」 ガーデニング活動を通じた地域共生社会構築の最新事例などを解説する。
授業計画 【第13回】	「農水省の農業に向けたとりくみ」 みどりの食料システム戦略、新規就農者の育成・確保について、スマート農業技術の普及促進「農水省のミッションなど
授業計画 【第14回】	「農業界の可能性とアプローチ」 農水省の「農業の魅力発信支援事業」を活用する一民間会社の活動について 終了時 分野選定説明会
授業計画 【第15回】	「地域農業のロールモデル」 就農までの道のりや農業経営の目標等について外部講師が解説する（農業はアート） 環境園芸概論の総括（まとめ）
授業の到達目標	園芸生産、自然環境、バイオ育種、景観、農業について基礎知識を学ぶ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	園芸生産、景観、生物多様性について調べる。（どのような授業が行われるか、自分なりに調べて内容を予測する。30分程度）
授業時間外学習【復習】	9園芸生産、景観、生物多様性について調べる。（当日どのような主旨の授業がなされたか授業内容を振り返る。30分程度
課題に対する フィードバック	提出した課題は、次週に解説して返す。
評価方法・基準	各回の担当教員が課題を出し、その課題への回答を評価します。 15回分の評価を合計して100点満点とします。
テキスト	無い
参考書	無い
備考	担当教員より資料を配布されることが多いです。